

第1部 とちぎスポーツ振興プラン21の基本的な考え方

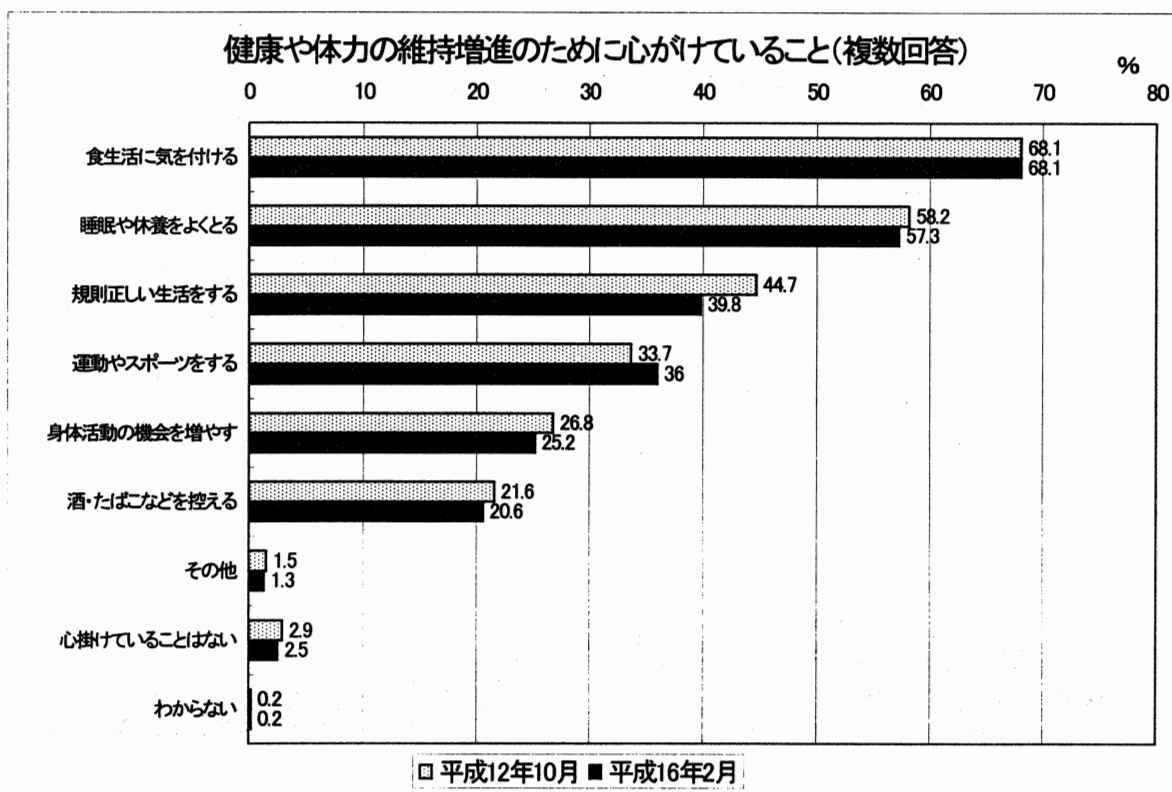
第1章 とちぎスポーツ振興プラン21策定の背景

1 社会環境の変化

今日の科学技術の発展は、生産過程の自動化、家事労働の省力化など、日常生活に多くの利便をもたらした反面、運動不足からくる体力の低下、肥満や生活習慣病の増加などの諸問題を生じさせています。

また、都市化の進行や高度の管理社会での生活は、地域社会との連帯意識を希薄化させ、孤独感をもたらし、精神的ストレスを増大させるなど、人間関係の在り方にも変化をもたらしています。

このような社会環境のなか、心身共に健康で豊かな生活を営むうえで、日常生活の身近な場でのスポーツ活動が重要になってきます。そして学校や企業の施設の開放などを含めた地域を基盤としてのスポーツ施設の整備、人々との交流を深める地域に根ざしたスポーツクラブの育成が急務となってきています。



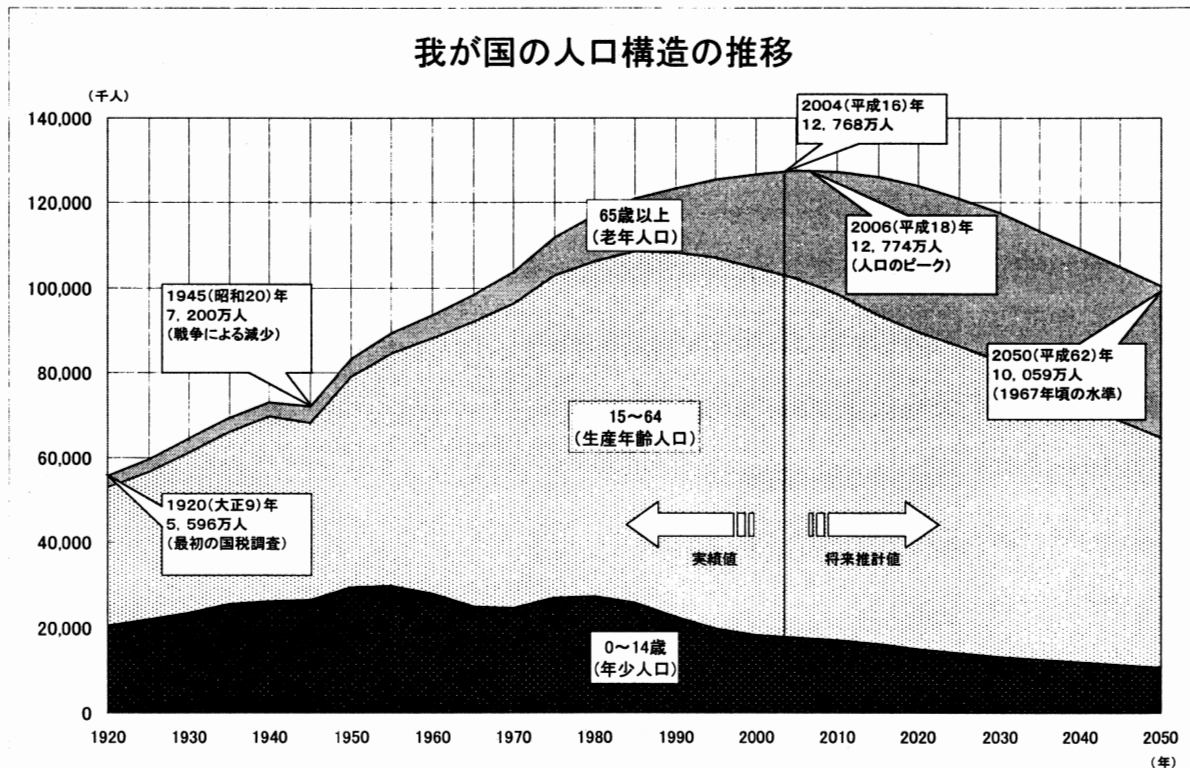
資料：「体力・スポーツに関する世論調査」(内閣府)

2 少子高齢社会の進展

我が国の人口構造は、少子化による総人口の減少と老年人口の増加による高齢化が同時に進行しようとしています。総人口は、2006(平成18)年にピークを迎え、2007(平成19)年から減少に転じると予想されていました。ところが、2004(平成16)年の出生率が過去最低の水準となり、従来の予想を上回るスピードで少子化が進行したため、2005(平成17)年から我が国の人口は減少局面に入りつつあると考えられています。一方、65歳以上の老年人口は、総人口の20%に迫るとともに、人口規模の大きい戦後生まれの団塊の世代が高齢期を迎えることなどから、一層急速に増加することが予想されています。

このように、人口構造の急速な少子化と高齢化が同時に進行しようとしている社会の変化の中で、人々が活力を維持・増進していくためには、自ら健康づくりに心がけ、主体的に行動し、自立したライフスタイルを構築することが、個人として、また、社会としての大きな課題となっています。

そのため、少子高齢社会においては、一人ひとりが自ら健康に関心を持ち、高齢者も活力を維持し、自らの能力に応じてスポーツ活動を日常生活に取り入れていくことが求められています。



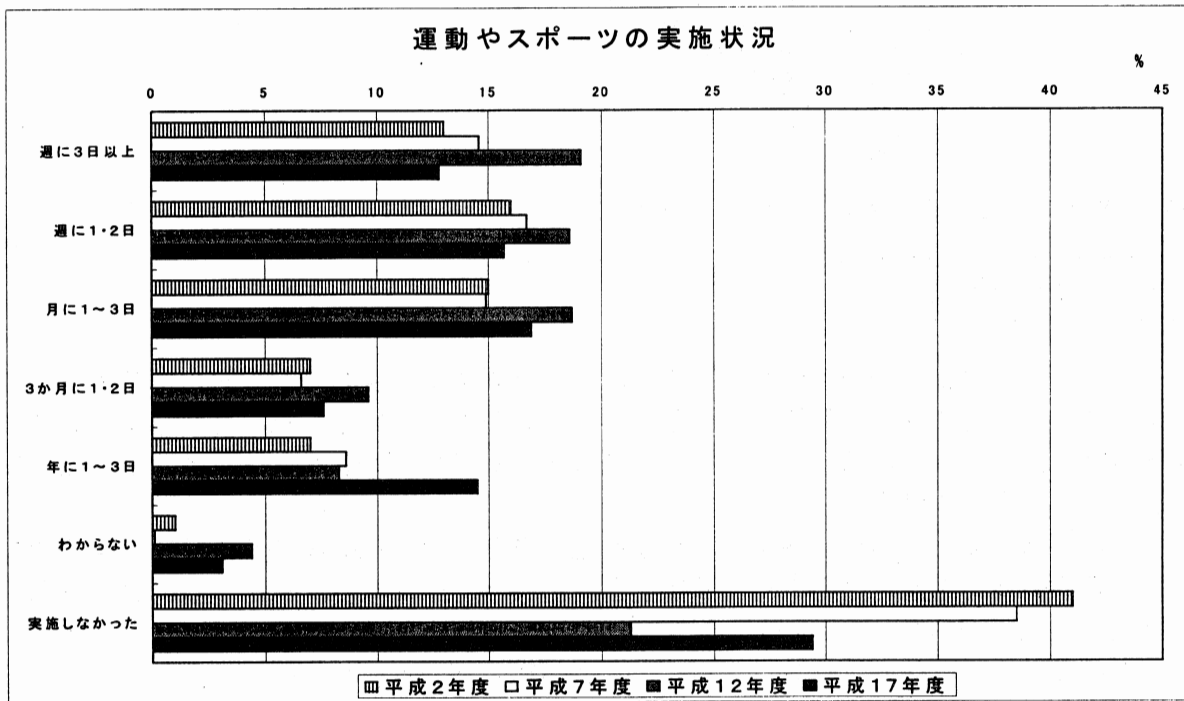
資料：2004(平16)年までは総務省統計局「国勢調査」、「10月1日現在推計人口」

2005(平17)年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

3 自由時間の増大

週休2日制や夏季等における長期休暇などによる年間労働時間の短縮や学校週5日制の実施、あるいは老後など1つのライフステージとしてまとまった形で自由時間が増大していることもあって、人々は自由時間をいかに有意義に過ごすかを積極的に考え始めています。

このようなことから、今後、増大するゆとりや自由時間を主体的に活用して、スポーツ活動を実施する人が増えていくものと予測されます。

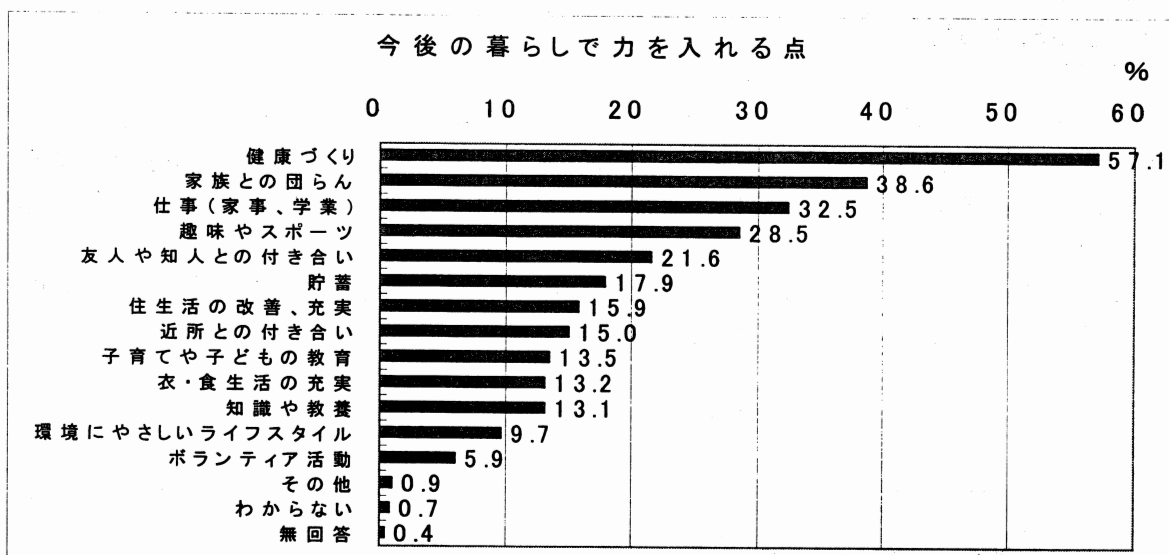


資料：「栃木県政世論調査」（栃木県）による

4 ライフスタイルの変化

生活水準の向上や自由時間の増大、高齢化の進展等を背景に、県民の日常生活は大きく変化し、人々の価値観やライフスタイルが多様化する傾向にあるとともに、自らの価値観に基づき、ゆとりや活力のあるライフスタイルを求める人々が増えています。

スポーツにおいても、多くの人々が楽しみや心身のリフレッシュ、健康・体力づくり、仲間との交流、自己の記録や能力の向上等、様々な目的のもとに多種多様なスポーツ活動に取り組むようになってきています。さらに、近年では、スポーツ文化の享受形態として、「するスポーツ」、「みるスポーツ」に加え、「支えるスポーツ」すなわちスポーツにおける「ボランティア」活動の意義・価値が、新たに認められるようになってきました。



資料：「栃木県政世論調査」(平成17年度・栃木県)

5 自然志向の高まり

人々は、これまで物質的に豊かで便利な生活を求めてきましたが、都市化の進展等によって身近に自然を感じる機会の少ない今日、心身ともにゆとりある豊かな生活に対する意識の広まりなどから、ストレスの解消や心のやすらぎを求めて、積極的に自然と親しもうとする人が増えています。

本県には、多彩な四季を演出する恵まれた自然があり、この優れた環境は人々の豊かな生活や健康な心身を育むための貴重な財産となっています。スポーツにおいても例外ではなく、人と自然とが直接触れ合うハイキングやキャンプ、スキー、パラグライダー、カヌーなど、様々なアウトドアスポーツに強い関心が寄せられています。

6 国際化の進展

国際化の進展に伴い、地域や自治体においても様々な国際交流が行われています。

また、海外旅行者や留学生の増加、国際的な情報の流通などによって、様々な分野において世界各国との距離が急速に短縮しています。

今後、国際化が一層進むなかで、教育・文化・スポーツの分野において国際的な交流・協力を深めることは、相互理解を図るうえで極めて重要なことと認識されています。

7 高度情報化の進展

パソコンや携帯電話の普及により、インターネットなどの情報通信ネットワークが急速に進展しています。また、それらを用いた新しいコミュニケーションやオンラインによる購入など、ライフスタイルが大きく変化してきています。

スポーツの面においても、情報化は目覚ましく発展しており、世界中のイベントがリアルタイムで視聴できるなど、スポーツ観戦がより身近なものとなっています。